

# 最難関・難関は例年並み 存在感を増す人気校も 志望校選びは幅広く柔軟に

受験者数は微増の見込み  
最難関校は沈静化傾向に

増になると見て  
います。  
模試での志望状況も今年度入試  
と似た状況で、最難関校や準難関  
校の志望者はそれほど伸びておら  
ず、むしろ微減の傾向です。難関  
校をめざす受験生には激戦がやや  
緩和されるかもしれません。

一方、上位校の序列自体が変わ  
つてくるような動きもあります。  
年々人が高まり、受験者が増加  
しているのは渋谷教育学園幕張、  
市川、聖光学院といった東大の合  
格実績で結果を出している学校で  
あります。これらの学校は序列も上がり、  
いわゆる御三家の一角に食い込む  
勢いがあります。今夏の模試状況

2024年度の入試は難関校人  
気が続く一方、最難関校の受験者  
は減少傾向が見られました。東京、  
神奈川の一般入試が解禁される2  
月1日午前の受験者数は約4万3  
千人。首都圏の小学6年生の総数  
が前年より約5000人減ったもの  
の受験者数は前年並みだったた  
め、受験率はやや上昇しました。  
今年の夏に行われた6年生対象の  
主要模試の総受験者数は今年度入  
試とほぼ変わっていなかったため、來  
年度の受験者数も今年度並みか微  
少に増えています。

2025年度の入試は、1月の受験校  
がどこになるのか、周辺の中堅校  
にも影響があるでしょう。

勢いがあります。今夏の模試状況  
を見ても志望者数が増えていま  
す。いずれも2月1日に入試を行  
わない学校なので、1日の受験校  
がどこになるのか、周辺の中堅校  
にも影響があるでしょう。

大学の付属校では、早慶が非常  
に伸びています。特に慶應義塾普  
通部は、今年から入試の合格最低  
点などを公開した結果、夏の模試  
では前年比112%の志願者を集  
めました。早稲田は新校舎の完成  
で志願者が増加し、早稲田実業学  
校、早稲田大学高等学院も変わ  
らず人気です。早慶の付属校人気は  
いずれも高止まりといえるでしょ  
う。MARCHの付属校では、立  
教大学の系属校である立教女学  
院、香蘭女学校が人気です。立教  
には付属の女子校がありません  
が、この2校は立教大学に原則進  
学できるようになつたことで大い  
に注目を集めています。

常におこなうことは、志望校は  
見、順天堂大学や芝浦工業大学と  
連携する湘南白百合学園、山脇学  
園等が人気です。

かつては学校選びの材料は偏差  
値が中心でしたが、現在は教育方  
針や教育内容がさまざまな形で発  
信されるようになり、情報を得る  
機会が増えました。各校の魅力が  
見えやすくなつたことは、ここ最  
近の受験動向にも影響していると  
感じます。

この時期になると第一志望校は  
固まっていると思いますが、併願  
校選びも重要です。「ここなら行  
つてもいい」と思える学校かどうか  
をよく考えて選んでください。  
午前・午後の入試を、優先順位  
を決めて組み合わせ、2月1日か  
2日に合格を得ておくことも大事  
です。夏を乗り越えた受験生は、  
秋の3カ月でぐんと力を伸ばしま  
す。ここから入試本番までを有意  
義に過ごしてほしいと思います。

**志望校選択は範囲を広げて  
併願校も慎重に選択を**

こうした背景を踏まえて、志願  
校選びは偏差値だけにとらわれ  
ず、校風や教育内容をしっかりと見  
てほしいと思います。伝統校であ  
っても保護者の皆さんの時代とは  
変化している学校は少なくあります。  
それでも保護者の皆さんの時代とは  
えまします。また、前述の早稲田  
のように、大学付属・系属校であ  
り、付属校と進学校の境界

は薄れてきています。進学校だ  
け、あるいは付属校だけを志望校  
に考えている場合は、選択の幅を  
広げてみることをお薦めします。

大学で何を学ぶかも考えておき  
ます。順天堂大学医学部に推薦入学  
ができるとあって、今後間違なく  
人気を集めしていくでしょう。高大  
連携教育を強化している学校で  
は、東京理科大学と連携する富士  
見、順天堂大学や芝浦工業大学と  
連携する湘南白百合学園、山脇学  
園等が人気です。

常に重要です。午後に本命校を受  
験する場合は、1日午前に安全校  
にいるので、1日の受験校  
がどこになるのか、周辺の中堅校  
がどこになるのか、周辺の中堅校  
にも影響があるでしょう。



森上教育研究所 代表  
**森上 展安 氏**

早稲田大学法學部卒業後、進学塾塾長などを経て1988年に私立中・高や学習塾を対象とする「森上教育研究所」を設立。現在は同研究所の代表を務める一方、受験や中高一貫教育についての豊富な情報と経験を生かし、評論・分析の分野でも活躍。ほぼ毎週、中学受験の保護者を対象に、著名講師陣による「わが子が伸びる親の『技』研究会」(oya-skill.com)を開催し、その動画を配信している。

**付属校では高大連携が進む  
準難関では高大連携が進む**

来年度入試のトピックで注目  
は、順天堂大学の系属校として初  
めての入試が行われる順天堂大学  
系属理数インター・医学コースで  
できるとあって、今後間違なく  
人気を集めていくでしょう。高大  
連携教育を強化している学校で  
は、東京理科大学と連携する富士  
見、順天堂大学や芝浦工業大学と  
連携する湘南白百合学園、山脇学  
園等が人気です。

常におこなうことは、志望校は  
見、順天堂大学や芝浦工業大学と  
連携する湘南白百合学園、山脇学  
園等が人気です。

かつては学校選びの材料は偏差  
値が中心でしたが、現在は教育方  
針や教育内容がさまざまな形で発  
信されるようになり、情報を得る  
機会が増えました。各校の魅力が  
見えやすくなつたことは、ここ最  
近の受験動向にも影響していると  
感じます。

**日経マガジン 教育特集号★読者プレゼント**

本特集に関するアンケートにお答えいただいた方の中から、  
抽選で図書カード2,000円分を10名様にプレゼントします。

◎応募締切…2024年11月11日(月)

※お申し込みはお一人につき1回でお願いします。  
※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

★ご応募はこちらのサイトよりお申し込みください。  
<http://adnet.nikkei.co.jp/>

または、**日経アドネット** 検索